

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年 4月 5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470206032		
法人名	医療法人厚生堂		
事業所名	グループホーム あいあいホームながさき		
所在地	広島市西区横川町3丁目6番17号 (電話) 082-532-6636		
自己評価作成日	令和2年11月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470206032-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年3月30日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

訪問看護と連携して週に一度定期訪問をして頂いていたが、現在コロナ禍の事情によりその都度、相談や報告のみ行っている。但し、特段の事情がある場合は、訪問して頂いている。また月に二度、往診があり健康面において医療方面との連携がとりやすくなっている。利用者様の状況や状態などもご家族様と逐一連携をとり、ご安心して頂けるように、施設全体として心掛けています。人間関係も良く働きやすい職場なので離職率も低い。ベテランの職員が多く、応用の必要な介護にも柔軟に対応する事ができ、些細な要望にもなるべくお応え出来るように努めている。その為に知識と経験に基づいたケアを行う事が出来る。屋上へ散歩、職員と一緒に買い物等(現在、中止)、なるべく個々にあった介護が出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

母体が医療法人で、定期的な往診があり、健康面への対応がなされ利用者・家族も安心出来るように取り組んでいる。看取り時24時間医療機関連携体制が整えていて、家族の不安にも細かく配慮している。夕食は職員と利用者が一緒に献立を考え、買い物で食材選びから、下準備、配膳、テーブル拭きに至るまで利用者の出来る事に力を入れて支援している。毎日の目標を朝、昼、夕の申し送り時に伝達、話し合い個別ケアに活かした、思いやり介護を全職員で実践している。業務を行う中で、新人職員がベテラン職員に介護法等何でも話せる信頼関係が築けて、意見や提案を出しやすい環境づくりがなされている。

自己評価	外部評価	項目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業理念【思いやりの介護】のもと、日常の申し送りを通して、日々の理念の実現に取り組んでいる。また、申し送りシートに日々の目標を掲げて、その目標をチームで達成出来る様に意識し、実践している。事業所の理念を掲示している。	朝の申し送り時、利用者の今必要としている支援を個々のケアの目標に掲げ取り組んでいる。午後、夜勤前に再度申し送り時、話し合い認識を深め共有し、思いやりの介護を実践している。食事の進まない利用者、家族から聞き取りを行い外食が好きな利用者との分り、屋上で実際に食事処を設け、食事をしてもらった事もある。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の散歩や日々の買い物を通じて、近所の方やお店の方に挨拶や話をされている。また、地域でのお祭りやイベントに参加させて頂くなど地域活動の参加により、地域住民の方々との交流に努めている。地域包括支援センターの主催する他事業所との交流研修会等に参加している。(現在、コロナ禍により外出自粛しており、屋上散歩と近隣の公園のみ)	夕食材の買い物や夏祭り、亥の子祭り、婦人会の集会で介護教室等、地域活動に参加している。今後も地域住民との交流や地域包括支援センターとの良好な信頼関係が築けるように努める考えである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと連携をはかり、地域団体の認知症研修会などの講師を務めるなどしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回のペースで運営推進会議を開催し、状況など、取り組みの報告を行うと共に、今後の活動に際しての意見交換を行っている。(現在、運営推進会議は一同に集まらずに書面のみ)	運営推進会議は2か月に1回開催し地域包括支援センター職員、民生委員、管理者、職員で活動報告・近況報告等行っている。現在はコロナ禍で書面のみでの報告となっている。今後は家族に会議参加の声掛けや議事録の配布等する考えである。元利用者家族が運営推進会議に参加協力が得られる予定である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町担当者に運営推進会議に出席して頂き、事業所の活動内容や実績を報告させて頂いている。また、介護保険制度について電話などで相談させて頂いている。(現在、運営推進会議は一同に集まらずに書面のみ)	地域包括支援センター職員を通じて、介護保険制度上の相談や事業所の空き情報、お茶会と称して栄養補助食品の試食会等情報交流を得て、協力関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関わるマニュアルを整備しており、スタッフ同士で身体拘束廃止委員会を作り、全スタッフに資料として配布している。(3ヶ月に1回開催し、意見交換) やむを得ず行う場合は、マニュアルに則り、保証人の同意を得るようにしている。	身体拘束について、運営規程や指針を整備し、3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催している。年2回職員研修を行い、正しい知識を認識し、理解を深め、全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修やミーティングなどを通じて、理念を深め虐待防止に努めている。	/	/
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要に応じ、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している。	/	/
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容・重要事項説明を十分に行い、利用者・家族に同意を得ている。	/	/
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者・家族からの意見、苦情等は面会に来られた時など、日常会話の中から受けている。また、外部の苦情申立機関は重要事項説明に明記し、契約時に説明を行っている。	コロナ禍の為、タブレット端末を利用し意見を聞く機会を設けている。外出困難な中、外出のガイドライン、「コロナウイルス感染に係る外出の為の規程」で家族に同意を得た上で、ケアプランに位置づけ、少人数での外出支援を行っている。外出前と帰宅後にチェックリストに記入、心身ストレス解消に繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送り・ミーティングを通じて、職員の意見、提案を運営の参考に行っている。	業務の中や申し送り時、ユニットリーダーが意見提案を聞いている。月1回のリーダー会議で意見や提案の検討を行っている。据え付け手すり、タブレット購入等反映に繋がっている。利用者居室のプラスチックタンスに外から見えないようにシールを貼る等、担当職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己啓発のための研修を行ったり、外部研修が受講出来る環境を整えるように努めている。個々のスキルアップ向上の為、職員が持ち回りでテーマを決めて研修を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に内部研修を行う等して、職員のレベル向上に努めている。新人職員には、プリセプターとしてベテラン職員が教えるシステムになっている。また、日々、職員間でケアについて話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所と独自に、カンファレンス・研修会を行う等して、サービスの質の向上を図っている。(現在、中止)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者・家族の要望や意見を基に、ケアプラン作成を行っている。初期のアプローチは特に濃厚に関わっていくようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居に当たっては事前訪問を行い、利用者の状態・状況の把握に努め、家族の要望などを聴く機会を設けて、個別の対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の中から、利用者・家族のニーズを明確にするよう努めている。また、それに対する理解・同意を得た上で、個別のケアに取り組むように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活において、個々が役割を持って生き生きと生活出来るようにしている。調理活動で言えば、包丁を使う、味付け、取り分け等、共に調理し、配膳など行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者を中心とし、家族と連携を取りながら支援体制を整えるよう努めている。家族からの直接的支援をケアプランに取り込んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人等、馴染みのある方が来所しやすい環境作りに努めている。	タブレットを使用しての面会や毎年恒例行事の花見が出来ない中で、事業所屋上でおやつを楽しんだり、浴室内に桜を飾る等して花見気分を感じてもらおう等、事業所内で出来る馴染みの場や人との関係が途切れる事のないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席の配置は、利用者の個性を把握した上で指導を行う等配慮をしている。また、利用者同士も関わりが持てるように、グループワークも取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した利用者に積極的なアプローチは行っていないが、訪ねられた時には、今まで通りの関係が保てるように心掛けている。また、なかには契約終了後も運営推進会議のメンバーとして継続した関係を維持出来ているケースもある。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の申し送り、ケアプラン作成において把握するよう努めている。また、家族来所の際、入居前の暮らし方の希望等を聞き、反映している。（その方の生活史を参考）	介護保険認定更新時に家族からの意向の把握や担当職員が利用者からも意向を確認している。老老介護の妻の入居に伴い、夫の面会が難しい中での不安を思いやり、職員の同行により自宅に外出が叶い、夫婦間の不安が少しでも軽減する支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や嗜好等は、利用者・家族から随時聞き取れるようにしており、申し送り、ケアプラン等で周知するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活記録を活用し、一人一人の状態を把握するよう心掛けている。また、毎日の申し送りにおいて、職員が周知するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日常生活の中から利用者・家族の要望・希望等を聞き、それに基づいてケアプランを作成している。また、それについて家族から同意を得て交付している。</p> <p>現場での本人様の状態を計画作成担当者が聞き取り、ケアプランに反映させる。</p>	<p>利用者・家族の意見や要望、医師や看護師、関係者と話し合いを行い、計画作成担当職員が介護計画書を作成している。毎日の申し送り時の振り返りや半年ごとにモニタリングを行い、現状に即した介護計画書を作成している。</p> <p>編み物が出来る利用者出来る事として編み物をしてもらうよう検討中である。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日常生活記録において、24時間の記録をつけている。また、特記等においては、裏面に詳細を書き、申し送りで周知するよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者個々の状況に応じて、夜勤を2名体制にする、家族と外出していただく等、臨機応変に対応するよう、心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>町内のお地藏様の散歩や、地域商店街での飲食等、地域資源を活用した支援を行っている。(現在は休止)</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>同一法人の医療機関の医師が月に2程度程度往診を行うと共に、随時必要に応じて対応している。</p>	<p>入居時、かかりつけ医の希望を聞いている。法人医療機関の医師による月2回の往診や訪問看護師の健康チェックの連携が円滑に取れる事から、全入居者のかかりつけ医は協力医である。必要時には24時間医療連携体制により適切に対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	事業所が独自に訪問看護ステーションと事業契約を行っている。定期的な健康管理を行うと共に随時、相談・緊急時の体制も整えている。及び、常勤で1名の看護職員を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も医師から経過について情報を頂くよう努めている。また、退院後も医師及び訪問看護ステーションと共同してフォローにあたっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	協力医療機関の医師並びに家族と話し合い、訪問看護ステーションのバックアップ体制を加味しながら、看取りを含め、方針を決めている。	入居時、看取りに関する指針について説明を行っている。終末期には医師、家族、管理者等話し合い、方向性を決めチームで支援に取り組んでいる。ユニット毎の夜勤者と宿直者を配置し、夜間帯の医療機関との協力体制も整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応の研修などに参加し、事故発生時に備えている。また、急変時に関しては、協力医療関係・訪問看護ステーションと連携がとれるよう、日常的に情報交換を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、消防署に依頼し、消防訓練を行っている。ホームの上階には同一法人の看護師寮があり、緊急時の体制も整えている。災害時のマニュアル作成しており、全職員に周知徹底。	年2回夜間想定消防訓練を行っている。通報訓練、消火器の使用方法、防火区域の確認、布団に横になったの避難訓練等、消防署職員の検証、指導のもと行っている。備蓄品(水、食品等)を整備している。	

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人としての尊厳を守る事を前提としたケアを心掛けている。誠実な対応を心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重し、個別ケアにより、プライバシーを確保し、声掛けや言葉かけにも人格を損ねる事のないよう、決してその場しのぎの対応をしない、思いやりの介護を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者のニーズを明確にした上で、本人の思いや希望を最大限に活かせるよう促しを行っている。自己決定を尊重したケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のニーズに沿って、個別ケアに取り組んでいる。本人のペースを尊重したケアを心掛けている。起床時間、食事時間も、本人の体調・生活ペースに配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容時、自己選択をしていただけるよう支援している。また、外出時等は利用者と話し合いながら、洋服を決めたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物へ一緒に行き、季節感を取り入れたり、一人一人の状態に合わせるよう配慮している。食事の準備・片づけにおいては、出来る限り利用者の参加を促している。	夕食は職員と一緒に考え献立を決めている。配膳等出来る事を役割とし行っている。ケーキ作り、お好み焼き、年越しそば、魚嫌いの利用者には別メニューを用意する等、食を楽しむ支援を行っている。よく取り組んだ事に対して、事業所独自の通貨を発行し、夏祭りの屋台の買い物に使用する等楽しみに繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に応じて食事の内容等、柔軟に対応するよう心掛けている。また十分な水分摂取を心掛け、嗜好に合った飲み物を数種類常備しており、嗜好に合わせて選択していただけるよう配慮している。毎日水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず口腔ケアを促している。特に就寝前の口腔ケアは徹底して取り組むようにしている。必要に応じて訪問歯科医等と連携を図る等して、支援している。定期的に義歯のメンテナンスや口腔内健康維持の為、毎月歯科医師より管理指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別に状態・状況を把握し、適切な排泄支援を心掛けている。出来る限りトイレでの排泄は行えるように支援している。例えば、利用者の部屋から近いトイレを覚えていただくなど支援している。	排泄チェックでタイミングを把握し、手すりの設置等でトイレでの排泄支援をしている。車いすから椅子への移行、歩行への声掛け、オムツ使用がアセスメントを行い自分でトイレに行ける等、適切な排泄支援に対応する取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	「毎日排便」を目指している。排便を促しやすい食材を摂って頂けるよう配慮している。また、便秘の際は主治医・訪問看護ステーションに服薬調整を相談し、指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の状態や希望に応じ、個別の入浴支援を心掛けている。時間は午前・午後どちらでも入浴するなど柔軟に対応。	週2回個別入浴支援を行っている。昼夜逆転の利用者には夜9時の入浴支援を1ヶ月間柔軟な対応を行ってきた。コロナ禍で例年の花見が難しい中で、浴室内に桜の花を飾り花見気分やしょうぶ湯、ゆず湯等季節を感じる支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	起床時間や食事時間等、施設 のタイムスケジュールに固執せず、 一人一人のペース、思いを重視 して生活していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	訪問看護ステーション・薬剤師 と連携し、個々の薬について把 握し、飲める形状にて提供させ て頂いている。利用者の不調に 気付いた際には、その症状を 具体的に主治医・訪問看護ステ ーションに連絡しており、必要 に応じて服薬に関する相談を行 っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごすように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	施設行事・外出など生活に楽し みが持てるように支援している。 また、個別に生活歴を活かした 役割、趣味が持てるように配慮 している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよ う支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	希望者には個別に対応するよう 配慮している。花見や紅葉狩り、 ドライブ、大型商業施設などの 外出支援を行っている。	商業施設の外出支援や紅葉の 時期に家族と一緒に宮島に出 かけ、自宅近くの知人に出会 う事が叶えられた。事前に安 全面等、配慮が必要であるが 行った例がある。実現は出来 なかったが、しまなみ街道の 大島に家族との1泊2日の個 別の外出計画等、家族の協力 を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	金銭の管理に関しては、自己 責任である事を同意していただ いた上で、希望者には所持して いただいている。また、日常の お小遣い等に関しては、希望 者には別段の契約の下、小口 現金に限りお預かりしている。		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 4F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に沿うようにしている。また、携帯電話の使用も取り扱うなどを含め、希望に沿った形で支援している。また、施設の電話を利用し家族などと話せる機会を設け、同時にLINEによるビデオ電話も活用している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間兼食堂には利用者の写真を掲示しており、テーブルには花を生けるなどして和める空間作りを心掛けている。また、天井や壁も落ち着いた色合いにしており、調度品等も馴染みやすい一般的な物を使用している。	フロアのテーブルには花が飾られ、壁面には行事の写真が貼られている。新型コロナウイルス感染症予防で温度湿度計、加湿器が居室にも設置し、飛沫防止の為にアクリル板や換気、消毒等感染対策をしている。利用者が洗濯物たたみやソファ席で寛ぐなど居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	視線を変えた場所にソファを配置している。また、利用者同士の関係性を常に留意して、必要に応じて席替え・配置換えを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来る限り使い慣れたもの、馴染みのあるものをご用意いただけるよう、入居前にお話をしている。	エアコン、カーテン、照明器具を設置している。自宅で使い慣れた物や馴染みの物、テレビ、冷蔵庫を持参している。転倒防止の為に持ち手のセンサーやベッドを中央に設置する等、安全面を考慮して、毎日が居心地よく過ごせる支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーとして、車椅子走行も支障がないようにスペースも確保している。また、側面には手すりを設置しており、身体機能を活かした生活が出来るよう工夫している。各利用者様に合った環境設定。(椅子、テーブル等の高さ等)		

V アウトカム項目(あいあいホーム 4F) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業理念【思いやりの介護】のもと、日常の申し送りを通して、日々の理念の実現に取り組んでいる。また、申し送りシートに日々の目標を掲げて、その目標をチームで達成出来る様に意識し、実践している。事業所の理念を掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の散歩や日々の買い物を通じて、近所の方やお店の方に挨拶や話をされている。また、地域でのお祭りやイベントに参加させて頂くなど地域活動の参加により、地域住民の方々との交流に努めている。地域包括支援センターの主催する他事業所との交流研修会等に参加している。(現在、コロナ禍により外出自粛しており、屋上散歩と近隣の公園のみ)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターと連携をはかり、地域団体の認知症研修会などの講師を務めるなどしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回のペースで運営推進会議を開催し、状況など、取組みの報告を行うと共に、今後の活動に際しての意見交換を行っている。(現在、運営推進会議は一同に集まらずに書面のみ)		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町担当者に運営推進会議に出席して頂き、事業所の活動内容や実績を報告させて頂いている。また、介護保険制度について電話などで相談させて頂いている。(現在、運営推進会議は一同に集まらずに書面のみ)		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関わるマニュアルを整備しており、スタッフ同士で身体拘束廃止委員会を作り、全スタッフに資料として配布している。(3ヶ月に1回開催し、意見交換) やむを得ず行う場合は、マニュアルに則り、保証人の同意を得るようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>研修やミーティングなどを通じて、理念を深め虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要に応じ、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約内容・重要事項説明を十分に行い、利用者・家族に同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者・家族からの意見、苦情等は面会に来られた時など、日常会話の中から受けている。また、外部の苦情申立機関は重要事項説明に明記し、契約時に説明を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の申し送り・ミーティングを通じて、職員の意見、提案を運営の参考に行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己啓発のための研修を行ったり、外部研修が受講出来る環境を整えるように努めている。個々のスキルアップ向上の為、職員が持ち回りでテーマを決めて研修を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	定期的に内部研修を行う等して、職員のレベル向上に努めている。新人職員には、プリセプターとしてベテラン職員が教えるシステムになっている。また、日々、職員間でケアについて話し合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他事業所と独自に、カンファレンス・研修会を行う等して、サービスの質の向上を図っている。(現在、中止)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者・家族の要望や意見を基に、ケアプラン作成を行っている。初期のアプローチは特に濃厚に関わっていくようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居に当たっては事前訪問を行い、利用者の状態・状況の把握に努め、家族の要望などを聴く機会を設けて、個別の対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談の中から、利用者・家族のニーズを明確にするよう努めている。また、それに対する理解・同意を得た上で、個別のケアに取り組むように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活において、個々が役割を持って生き生きと生活出来るようにしている。調理活動で言えば、包丁を使う、味付け、取り分け等、共に調理し、配膳など行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者を中心とし、家族と連携を取りながら支援体制を整えるよう努めている。家族からの直接的支援をケアプランに取り込んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人や知人等、馴染みのある方が来所しやすい環境作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	席の配置は、利用者の個性を把握した上で指導を行う等配慮をしている。また、利用者同士も関わりが持てるように、グループワークも取り入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了した利用者に積極的なアプローチは行っていないが、訪ねられた時には、今まで通りの関係が保てるように心掛けている。また、なかには契約終了後も運営推進会議のメンバーとして継続した関係を維持出来ているケースもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の申し送り、ケアプラン作成において把握するよう努めている。また、家族来所の際、入居前の暮らし方の希望等を聞き、反映している。（その方の生活史を参考）		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や嗜好等は、利用者・家族から随時聞き取れるようにしており、申し送り、ケアプラン等で周知するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活記録を活用し、一人一人の状態を把握するよう心掛けている。また、毎日の申し送りにおいて、職員が周知するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日常生活の中から利用者・家族の要望・希望等を聞き、それに基づいてケアプランを作成している。また、それについて家族から同意を得て交付している。 現場での本人様の状態を計画作成担当者が聞き取り、ケアプランに反映させる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常生活記録において、24時間の記録をつけている。また、特記等においては、裏面に詳細を書き、申し送りで周知するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者個々の状況に応じて、夜勤を2名体制にする、家族と外出していただく等、臨機応変に対応するよう、心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内のお地藏様の散歩や、地域商店街での飲食等、地域資源を活用した支援を行っている。(現在は休止)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	同一法人の医療機関の医師が月に2度程度往診を行うと共に、随時必要に応じて対応している。		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	事業所が独自に訪問看護ステーションと事業契約を行っている。定期的な健康管理を行うと共に随時、相談・緊急時の体制も整えている。及び、常勤で1名の看護職員を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も医師から経過について情報を頂くよう努めている。また、退院後も医師及び訪問看護ステーションと共同してフォローにあたっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	協力医療機関の医師並びに家族と話し合い、訪問看護ステーションのバックアップ体制を加味しながら、看取りを含め、方針を決めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応の研修などに参加し、事故発生時に備えている。また、急変時に関しては、協力医療関係・訪問看護ステーションと連携がとれるよう、日常的に情報交換を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年、消防署に依頼し、消防訓練を行っている。ホームの上階には同一法人の看護師寮があり、緊急時の体制も整えている。災害時のマニュアル作成しており、全職員に周知徹底。		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人としての尊厳を守る事を前提としたケアを心掛けている。誠実な対応を心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者のニーズを明確にした上で、本人の思いや希望を最大限に活かせるよう促しを行っている。自己決定を尊重したケアを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のニーズに沿って、個別ケアに取り組んでいる。本人のペースを尊重したケアを心掛けている。起床時間、食事時間も、本人の体調・生活ペースに配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	整容時、自己選択をしていただけるよう支援している。また、外出時等は利用者と話し合いながら、洋服を決めたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	買い物へ一緒に行き、季節感を取り入れたり、一人一人の状態に合わせるよう配慮している。食事の準備・片づけにおいては、出来る限り利用者の参加を促している。		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に応じて食事の内容等、柔軟に対応するよう心掛けている。また十分な水分摂取を心掛け、嗜好に合った飲み物を数種類常備しており、嗜好に合わせて選択していただけるよう配慮している。毎日水分摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず口腔ケアを促している。特に就寝前の口腔ケアは徹底して取り組むようにしている。必要に応じて訪問歯科医等と連携を図る等して、支援している。定期的に義歯のメンテナンスや口腔内健康維持の為、毎月歯科医師より管理指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個別に状態・状況を把握し、適切な排泄支援を心掛けている。出来る限りトイレでの排泄は行えるように支援している。例えば、利用者の部屋から近いトイレを覚えていただくなど支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	「毎日排便」を目指している。排便を促しやすい食材を摂って頂けるよう配慮している。また、便秘の際は主治医・訪問看護ステーションに服薬調整を相談し、指示を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	利用者の状態や希望に応じ、個別の入浴支援を心掛けている。時間は午前・午後どちらでも入浴するなど柔軟に対応。		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>起床時間や食事時間等、施設のタイムスケジュールに固執せず、一人一人のペース、思いを重視して生活していただいている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>訪問看護ステーション・薬剤師と連携し、個々の薬について把握し、飲める形状にて提供させて頂いている。利用者の不調に気付いた際には、その症状を具体的に主治医・訪問看護ステーションに連絡しており、必要に応じて服薬に関する相談を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>施設行事・外出など生活に楽しみが持てるように支援している。また、個別に生活歴を活かした役割、趣味が持てるように配慮している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>希望者には個別に対応するよう配慮している。花見や紅葉狩り、ドライブ、大型商業施設などの外出支援を行っている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>金銭の管理に関しては、自己責任である事を同意していただいた上で、希望者には所持していただいている。また、日常のお小遣い等に関しては、希望者には別段の契約の下、小口現金に限りお預かりしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(あいあいホームながさき 5F)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご希望に沿うようにしている。また、携帯電話の使用も取り扱うなどを含め、希望に沿った形で支援している。また、施設の電話を利用し家族などと話せる機会を設け、同時にLINEによるビデオ電話も活用している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間兼食堂には利用者の写真を掲示しており、テーブルには花を生けるなどして和める空間作りを心掛けている。また、天井や壁も落ち着いた色合いにしており、調度品等も馴染み易い一般的な物を使用している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	目線を変えた場所にソファを配置している。また、利用者同士の関係性を常に留意して、必要に応じて席替え・配置換えを行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来る限り使い慣れたもの、馴染みのあるものをご用意いただけるよう、入居前にお話をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	施設内はバリアフリーとして、車椅子走行も支障がないようにスペースも確保している。また、側面には手すりを設置しており、身体機能を活かした生活ができるよう工夫している。各利用者様に合った環境設定。（椅子、テーブル等の高さ等）		

V アウトカム項目(あいあいホーム 5F) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあいあいホームながさき

作成日 令和3年 5月17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	36	利用者様の目前で排便や薬の内服状況、心身の状態等のご本人様のプライバシーに関わる情報を職員が時折しがちである。	一人ひとりの人格を尊重し、人としての尊厳を守るよう配慮。	スタッフルーム以外ではインシャルトークを活用。排泄に関しては、事業所共通の隠語を使用。	1カ月間
2	44	医師や訪問看護の指示のもと、服薬調整の指示を仰いでいるが、介護従事者として排便を促す取り組みを行う。	できるだけ自然排便を促す。	食事後30分以内にトイレに行けるよう声掛けを行う。PTからの指導にて生活機能向上訓練の実施。	毎日実施/年1カ月間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。